

## 高速増殖原型炉「もんじゅ」性能試験再開について（見解）

平成22年5月11日  
原子力委員会

原子力委員会は、本日、独立行政法人日本原子力研究開発機構（以下「原子力機構」という。）から、高速増殖原型炉「もんじゅ」（以下「もんじゅ」という。）の性能試験の再開および今後の試験予定について報告を受けた。

今般の「もんじゅ」の性能試験再開は、高速増殖炉の実用化に向けた大きな一歩であり、今後、「もんじゅ」が、我が国の高速増殖炉とその核燃料サイクル技術（以下「高速増殖炉サイクル技術」という。）の研究開発の発展に大きく貢献するとともに、世界の高速増殖炉開発をリードする最先端の研究成果を生み出すことを期待する。

高速増殖炉サイクル技術は、長期的なエネルギー安定供給や放射性廃棄物の潜在的有害度の低減に大きく貢献できる可能性を有しており、我が国として国家戦略を持って取り組むべき重要な技術（国家基幹技術）として研究開発を着実に推進してきた。

特に「もんじゅ」は、この研究開発活動の中核的拠点であり、高速実験炉「常陽」における「高速増殖炉の基本的技術の実証」に続き、「発電プラントとしての信頼性の実証」と「運転経験を通じたナトリウムの取扱技術の確立」を目的としている。

国際社会において高速増殖炉サイクル技術の研究開発の重要性が再び高まる中、「もんじゅ」の果たす役割がより重要となっている。原子力機構は、このことも念頭に置き、今後、国際的な連携・協力の一層の強化を図りつつ、高速増殖炉の設計・建設・機器等に係る技術の検証・改良・高度化に不可欠な知見や経験等の蓄積等を着実にを行い、これらの目的を確実に達成するとともに、こうした研究成果が今後の実証炉および商用炉の開発に十分に生かされるよう取り組むべきである。

また、「もんじゅ」は、高速増殖炉サイクル技術の実用化に向けた研究開発の推進のみならず、国際的な研究開発協力、人材育成等の拠点としての役割等を有しており、運転再開により、これらの拠点としての機能が十分に発揮されるよう取り組むことも重要である。

原子力機構は、これらの「もんじゅ」の目的・役割等の重要性を改めて認識し、世界のフロントランナーとして高速増殖炉の実用化に向けての道を切り拓いているという気概を持ちつつ、今後、本格運転に向けてのステップを着実に進めると同時に、関連する核燃料サイクル技術の研究開発とも連携して取組を進めるべきである。

その際、過去の2次系ナトリウム漏えい事故等からの教訓を十分に踏まえつつ、「人は誤り、機械は故障する」ことを前提として、トラブル等の未然防止に努めることは勿論、講じられている防止策が確実に機能するよう保全活動を徹底させるとともに、このことについて国民及び地域社会に丁寧に説明することにより、社会との信頼関係をより強いものとしていくことが重要である。

当委員会は、原子力機構に対し、これらの取組を行うに当たって、一元的で全体を俯瞰できるトップの強いリーダーシップの下で、安全性や透明性の確保等を確実に行ない、費用対効果の観点から合理的な取組を絶えず行えるよう、ガバナンスの一層の強化を図ることを期待する。